

編集室から

今年の夏も猛暑と豪雨で大変な思いをされた方々が少なくありませんでした。新型コロナウイルスと併せての状況は、経済的にも非常に厳しい状況かと存じます。

被災された皆様に、改めまして心よりお見舞い申し上げます。

新幹線開業バブルともいえる状況だった金沢では、開業前の状態よりも人が少なく、静かな夏ですが関連する業界の方々を想うと、なんとも申し上げようもありません。

お盆過ぎに強烈な日差しを浴びながら、街を歩いていてふと、空気の乾き具合で秋の訪れを感じ、驚きました。我が家の玄関先では秋の虫が鳴き始めています。古の和歌に「秋来ぬと、目にはさやかに見えねども、風の音にぞ、驚かれぬる」とありますが、時の流れは一切の妥協無く、過ぎていくようです。

一方で、長期予報では残暑厳しいとされていますので、今しばらく熱中症対策への意識は欠かせないようです。

今月の表紙写真は、知人のぶどう園での一コマです。IT企業でのお勤めを終えられてからお父様のぶどう園を自然栽培に切り替えたという勇者の方です。無農薬なのは勿論、肥料も一切与えないので、普通のブドウよりも収穫時期がかなり遅いのですが、完熟の味いはそれはそれは筆舌に尽くしがたいものがあります。

自然と生命が本来持っている底力と、その成果の奥深さに、ただただ感銘を受けました。

自然栽培は返って手間が掛かりますが、無農薬と併せて、手入れの行き届いた農園で、すっきりくつろがせて頂き、至福のひとつときでした。

こちらの完熟ぶどうたちは、東京のレストランへ直接お嫁入りするそうです。今年、この農園への影響が少なければよいのですが。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00 ~ 23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2020/09
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>
〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp

2020/09
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

長 月

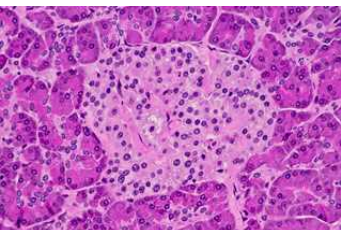


自然栽培のぶどうは絶品
石川県宝達志水町にて
by hama

COVID-19は、「with「コロナ」のステージで経済活動と感染抑制のバランスに苦しむ我々を嘲笑うかのように再拡大を続けています。ここ半年この場をお借りして私なりの考えを述べてきましたが、今のところ新たに追加して発信すべき事はありません。そこで、生活習慣病へ戻る事にします。まずはインスリンを正しく知っていただく意味も込めて、一型糖尿病の話です。

一型糖尿病とは、

ヒトの体内で血糖を下げる唯一のホルモンがインスリンで、インスリンを作る唯一の臓器が膵臓です。膵臓は大きさも形もバナナにそっくりなのですが、全く異なる二つの働きをしています。一つ目は、食べた物を消化する為に必要なアミラーゼやリパーゼといった消化酵素を作ることです。作って十二指腸の中に放出して、糖質や蛋白質などをバラバラになるまで完全に分解します（飲酒が過ぎると何故か消化酵素が膵臓内で活性化して、自分の内臓を溶かしてしまう）恐ろしい急性膵炎になります。腸管の中は体の外につながる空間ですから、これを体の外に分泌するという意味で「外分泌」といいます。膵臓の約九十％は、外分泌に関係する細胞からできています。そんな膵臓を顕微鏡で拡大すると、少し違う細胞が数百、数千個でひと塊りになって、大海原にボツンと浮かぶ島のように存在しています。発見者にちなんでランゲルハンス島と呼ばれ、これがもう一つの働きである体内の血液の中に



ホルモンを分泌する「内分泌」を担っています(図)。ランゲルハンス島のうち六七割を占めるのがインスリンを作る細胞で、一割がグルカゴンというホルモンを作る細胞です。このグルカゴンが後になって重要になるので、名前だけ覚えておいてください。一型糖尿病は、バナナのような膵臓の大海原にボツンと浮かぶ小さなランゲルハンス島の更に、細胞だけがピンポイントで破壊される病気です。たいていは数ヶ月で細胞が破壊され尽くし、インスリン注射による治療が必要になります。稀に数日で急激に進行して対処を誤れば死に至る「劇症」や、逆に数年以上かけて徐々に進行する「緩徐進行型」というアジア人に多いタイプもあります。

一型糖尿病の原因、

なぜインスリンを作る細胞だけが、よりによって選択的に破壊されるのでしょうか？これだけ精密な選別を行えるのは、高度な機能を備えるレベルまで分化した細胞だけです。進化の度合いが低いウイルスや細菌には、とつてい無理な芸当です。破壊の主役は、我々の体に備わる免疫細胞です。発症は、感染症を契機とする場合がほとんどです。侵入したウイルスや細菌を、免疫細胞は徹底的に排除します。その際の手掛りにするのが、細胞表面の特徴（抗原）です。この抗原が、侵入者と細胞で極めて類似しているらしく、免疫細胞が誤って攻撃を仕掛けてしまうと考えられています。このような機序での発症を自己免疫疾患と呼び、他に関節リウマチ・重症筋無力症・潰瘍性大腸炎・甲状腺疾患などが知られています。



【プロフィール】

（いがき としお）金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

濱の起業塾 十七 『起業』

一本の映画を制作する際、監督や俳優はもちろんのこと、多くの役割を担う人々の協力・チームワークが欠かせないのは、「ご承知のこと」です。プロデューサー、脚本家、演出家、時代考証、方言指導、ディレクター・AD、大道具・小道具、衣装・スタイリスト、メイク・ヘアメイク、音声、カメラマン、照明、CG、編集……。

起業活動においてもまったく同様である。起業家が「発明」した製品・サービス・ビジネスモデルは、たったひとりの人間の手に世に出せるものではない。

製造系技術者の出身であれば、どうしても「作る」と、もしくはその技術に専心しがちであるし、営業系の出身であれば、「いかに売るか」に興味が行くのは当然である。しかし、どんなに素晴らしい「製品」であっても、製造と販売の両輪が上手くかみ合わなければ、人々が手に取れる前に立ち行かなくなる。さらに、その有効性を伝えられなければ、「商品」としての

価値は、認識されず結局は「売れない」という現象が起きてしまう。

スタートアップの初期は、生産と販売に意識が集中しがちであるため、予想外に売れたとき、調達・運転資金・製造工程などの面でやりくりが付かず起動に載せられないという「上手く行き過ぎたがための巧く行かない状況」や、その真逆に「在庫を抱えすぎて事業が回らない」リスクは容易に想像できる。

起業プロセスが後段のマネジメント局面に入ったとき、これらを一人で包括的に対応できる人材は、極めて希少な存在ではないだろうか。この人々はゼロから一を創れる人だと思おう。しかし、ある程度の規模を持つ事業として育てていくには、やがてマンパワーが不足する。一から十へと歩んでいく過程で、これらのスキルを持つ人材をチームとして迎え入れるか、外部の委託先として連携するか、選択を迫られる。

では、どのようなスキルや専門家の役割・依頼事項が考えられるのだろうか。大きく観ると事業のウチとソトである。

コロナ禍でアーティストによる通常のライブ活動は止まったままだ。私は2/15、ナゴヤドームで踊るPerfumeを観たが、次週の東京ドーム公演は中止になった。その後、感染症による影響の長期化が現実視されるようになり、無観客オンラインライブに舵を切る動きが見られるようになった。

6/25、**サザンオールスターズ**の無観客配信ライブ⁽¹⁾が行われた。公開されている数字から経済的な効果と特徴を考察してみたい(未参戦)。

このライブのチケット売上は、日産スタジアム⁽²⁾を満員にするのとほぼ同じだったようだ(費用については適切な資料が得られなかったため比較しない)。

配信ライブ 3,600円 × 18万人 = 6億4800万円

通常ライブ 9,500円 × 7万人 = 6億6500万円

地方の1万人収容のアリーナと比較すれば約7倍のチケット売上になる。ただし、通常ライブでのグッズ販売は、チケット料金の半分程度の1人平均約5千円⁽³⁾にも上る。配信ライブでのグッズ販売の売上はかなり少なくなるだろう。予習復習やコレクション等のためのダウンロードやDVD等の購入もしかりだ。一方で配信ライブでは、投げ銭やプレミアムビューなどの課金方式が思いつく。これらを含めてライブDVDとの違いを出す工夫が要りそうだ。

会場周辺での消費(飲食、宿泊、交通費)、警備やテント等の設備に関する支出は配信だとほぼ蒸発。このほか、グッズ以外のライブ参戦服や装備の購入もモチベーションの低下が避けられない。ライブビューイング関連や、大型モニター、スピーカー、ヘッドホンなどの需要にはプラスに作用する。

オンライン化するにあたりビジネスモデルは再構築されていくだろう。空間的に離れていても、共感や共鳴できるライブにできるかどうかが重要である。

8/16、**サカナクション**のオンラインライブ⁽⁴⁾に参戦した。主観を述べたい。

<対面の上位互換だと思ったこと>

- ・音が抜群にいい(ライブDVDと同じ)
- ・全員S席(ライブDVDと同じ)、かつカメラ視線がとても多い

<対面の下位互換だと思ったこと>

- ・ワクワク感リアルにかなわない(ライブDVDよりはる)
- ・MCは目の前に観客がいない分、ライブ感がない
- ・どうしても通信が途切れる時がある

<オンラインならではの付加価値だと思ったこと>

- ・ビール飲みながらラフに参戦可
- ・ライブDVDにCGエフェクトを寄せ、時々PVがミックスされた感じに
- ・チャットで知らない他の観客と盛り上げられる

何れにしても10年程前、**宇多田ヒカル**のUstream配信生中継(無料)を見たときのことを思うと隔世の感である。有料配信ライブはこれから急速に進化するだろう。

9/26の**Official髭男dism**が楽しみだ(参戦予定)。

(1)<https://2020live625.southernallstars.jp>

(2)横浜国際総合競技場。現在の日本で最も収容人数の多い会場

(3)参考: ぴあ総研「ライブグッズの購入に関する調査結果」2019年4月

(4)https://sakanaction.jp/feature/sakanaquarium_online

コロナ禍でかつ、気温が35度越えが毎日続くこの季節はほんと地獄ですね。外出時にマスクを着用していると、コロナに感染する方がまだいいやとまで思ってしまいます。ダメだけど。

そんな身体的苦痛と同じくらい辛いのは、野菜の高騰による経済的苦痛です。中がスカスカのレタスが1玉400円、白菜1/4が250円って。。。。誰が買うの?7月の長雨、8月の猛暑が原因とのことですが、これってもう毎年起こってます。何十年に一度という決まり文句をテレビの気象報道で耳にするけど、去年も同じような水害や高温起こってます。ということは毎年この季節は野菜は高騰するということです。

僕がならば何を考えるか?現在の気象状況をベースとして、地域ごとの作付け計画を見直します。例えば九州で7月の降雨量が多いということであれば、その時期のトマト・きゅうりの作付けは他の地域にシフトする。関東内陸部で8月~9月で高温が常態化するのであれば、葉物野菜は北海道に産地をシフトしていく。という考え方です。

当然政治家も官僚もJAの経営幹部はもっと効果的なソリューションを考えるのですが、現実として今、農業政策がうまくいっていないのは事実です。つまり何もしていないと同じということ。

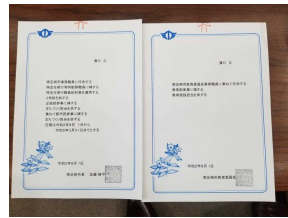
また野菜高騰のもうひとつの理由には、農業従事者の減少でリスク要因をカバーリングできないレベルにきているのでは?ということですが、つまり、以前であればどこかの産地でナスが不作でも、他の産地でも生産量があるので市場価格はそこまで変動しないという産地ごとに補填する仕組みがあったのではないのでしょうか。

いずれにせよ、僕が常々思うのが食は防衛力と同じくらい大切な国を守る資源であると考えます。中国が自国を非難する豪州から食材輸入を制限する動きを見せるなど、食はある種兵器と同じくらい国にダメージを与えます。環境問題を真剣に捉え実行していくと並行して、現状での気候でも安定した供給が可能となる日本の食政策を真剣に考えないと、そろそろまずいところまで来ているのでは?

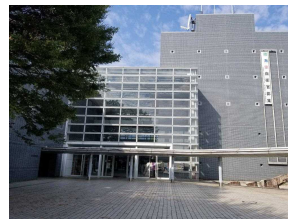
『富士の国から ~大魔神のたび~』 ~南足柄市赴任~
静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

8月1日から神奈川県南足柄市に企画部、都市部及び教育部のトリプル参事として就任した。

静岡県を早期に退職し小山町でまちづくり専門監を務めたのが6年4カ月、そんなに長くいたのと言われたが心の中では9年間いるつもりだった。小生を呼んだ込山前町長の任期中はお付き合いしようと思っていたからだ。ところが、昨年4月の町長選に、歴代の町長が避けてきた都市計画税の実施の目処を立てた矢先に、それを廃止するとノコノコ出てきた候補者に破れた。しかも、この新町長は専門監なんて要らないと言うのだ。となれば、役場に居にくくなるのも当然のこと、前に町長からの依頼の仕事が済めば用はない。それが7月末を退職の時期に選んだ理由だ。昨年、かねてから交流のあった県は違うがお隣さんである南足柄市の市長からウチに来てくれないかとのオファーがあった。まだまだ隠居の身でもないし、望まれる内が華と思い転職を決意した。



南足柄市は神奈川県西部の市で県内では最も人口が少ない4万1千人ほどである。箱根山の外輪山の北東側にあり酒匂川の支流のひとつ狩川を中心に市街地が広がっている。市域の7割は山に囲まれ水に恵まれている。国土交通省の制定した水の郷百選にも選ばれており、富士フィルムやアサヒビールなど大手企業の事業所・工場が立地している。また、「金太郎のふるさと」として知られ市内のいたるところで金太郎に出会える。ちなみに小山町は「金太郎生誕の地」として売っている。



早速、やってもらいたい仕事のリストを渡された。昭和40から50年代に建てられた学校を含め公共施設がそのまま手が付けられておらず、大規模修繕が必要であるし、役割を終えかけている施設もある。この場合はその後の利用をどうするのか？何とか筋道を立てなくてはいけない。多数施設があるから、これは相当に長く続く事業になるろう。

地蔵堂という「金太郎生家跡」、「金太郎の飛び石広場」に「金太郎もみじ」と言わば金太郎の里がある。ここに箱根に抜ける林道が整備され、

人の往来が増えるので、これを気に観光振興を図りたい。まだまだ課題は続く。

このところ調子のいいふるさと納税の寄付金はあるものの、富士フィルムの本社が移転し税収が減った市に余裕はない。ここが知恵の絞りどころだ。公民連携をうまく仕掛け、いかにイケてる仕事に組み立てるかがいつも念頭にある。

まずは手始めに区画整理の際に設けた調整池が広くある。今の時期、草ぼうぼうになっていて、住民からは当然の如く草刈りの要請が来る、しかしこの広さだ。熱中症間違いなしの作業にたじろぎ、頼むにも割増料金が請求されそう。サッカー場に、イベント広場にとアイデアはある。

でもこれを市でやるとなると草刈以上の費用がかかりそう。ならば、必要とする者に貸してしまえばどうだろう。広場を自由に運営する。貸しコートでもフリーマーケットの会場だって、駐車場だって、使い途は相当にありそう。公民連携の名のもとにサウンディング調査をしてマーケットのある無しを確認しよう、話はそれからだ。

役所の中で議論していても始まらない。「公務員よ、席を立てて街に出よう。そこにみんなが待っている。」と由布院の中谷健太郎さんに良く言われた言葉だ。早く準備に取りかかろう、冬が近づき草の勢いが失せたときに、皆が加勢できるようにね。任期は2年8カ月。スタートダッシュで駆け抜けたいものである。

ご案内できる処たくさんあります。どうぞ、様子見に南足柄にお越しくださいませ。

